

2010年1月1日から2020年12月31日に、進行期胃がんの治療を受けた方へ

研究実施のお知らせ

研究の題名：「進行期胃癌における L-Asparaginase 感受性予測因子としての ASNS 遺伝子メチル化状態の解析」

研究期間：医学域長の許可日～2026年3月31日

研究責任者：山梨大学医学部小児科学講座 特任助教 渡邊 敦

山梨大学医学部では、上記課題名の研究を行います。「人を対象とする生命科学・医学系研究に関する倫理指針」（令和3年6月30日施行）に基づき、匿名化された既存試料・情報（診療録等）の研究利用について、以下に公開いたします。

【研究の目的と意義について】

本研究では、過去に山梨大学医学部附属病院で治療を受け、外科手術を受けた患者さんの組織または京都大学消化管外科学講座に保管されている組織標本を用いて、アスパラギン合成酵素（ASNS）遺伝子のメチル化状態の分布を明らかにすることを目標としています。この研究で得られた知見に基づき、将来的にはL-アスパラギナーゼを用いた進行期胃癌に対する新規化学療法戦略を構築したいと考えています。

【研究の方法について】

胃がん細胞の保存試料を用いて、ASNS 蛋白が胃がん細胞にどの程度発現しているかを調べます。また、ASNS 蛋白の発現が弱い保存試料を用いて、ASNS 遺伝子のメチル化状態を評価し、L-アスパラギナーゼが有効と考えられる胃がんが全体のどの程度の割合で存在するのか、また ASNS 遺伝子がメチル化された胃がんの臨床的・病理学的な特徴は何かを調べます。

【利用する試料・情報について】

〈対象となる患者さん〉

進行期胃がんの患者さんで、2010年1月1日から2020年12月31日の間に治療を受け、当院の病理部または京都大学消化管外科学講座に組織標本と保存試料が存在する方

〈利用する情報・項目〉

情報：診療録情報、検査データ

試料：腫瘍の切除標本、その辺縁の正常胃組織

なお、この研究に必要な臨床情報は、すべて診療録及び保存検体より取り出しますので、改めて患者さんに行っていただくことはありません。

【試料・情報を利用する者の範囲について】

この研究は、以下の機関より既存試料・情報の提供を受けて実施いたします。

この研究で使用する試料・情報は、すべて各機関においてオプトアウト（通知又は公開と拒否する機会の提供）により入手し、匿名化されたデータです。

既存試料・情報の提供機関及び提供者

京都大学医学部 消化管外科学講座 板谷 喜朗

【個人情報の取扱いについて】

収集したデータは、誰のデータか分からなくした（匿名化といいます）上で、統計的処理を行います。国が定めた倫理指針（「人を対象とする生命科学・医学系研究に関する倫理指針」）に則って、個人情報を厳重に保護し、研究結果の発表に際しても、個人が特定されない形で行います。

【利益相反について】

この研究は、山梨大学で管理されている研究費を用いて実施いたします。この研究のために、企業等からの資金提供はありません。したがって、この研究の計画、実施、発表に関して可能性のある利益相反は存在しません。また、研究責任者及び分担研究者は、利益相反について本学医学研究利益相反審査委員会に申し、適切な実施体制であることの審査を受けております。

【お問い合わせ等について】

この研究へのご協力は、患者さんご自身の自由意思に基づくものです。この研究への情報提供を希望されないことをお申し出いただいた場合、その患者さんの情報は利用しないようにいたします。ただし、お申し出いただいた時に、すでに研究結果が論文などで公表されていた場合には、完全に廃棄できないことがあります。情報の利用を希望されない場合、あるいは不明な点やご心配なことがございましたら、ご遠慮なく下記連絡先まで、メール又はFAXにてご連絡ください。この研究への情報提供を希望されない場合でも、診療上何ら支障はなく、不利益を被ることはありません。

また、患者さんや代理人の方のご希望により、この研究に参加して下さった方々の個人情報および知的財産の保護や、この研究の独創性の確保に支障がない範囲で、この研究の計画書や研究の方法に関する資料をご覧いただくことや文書でお渡しすることができます。希望される方は、以下までメール又はFAXにてご連絡ください。

〈お問い合わせ等の連絡先〉

山梨大学医学部小児科学講座

特任助教 渡邊 敦

メールアドレス：awatanabe@yamanashi.ac.jp

FAX：055-273-6745